

I 今年度の取り組みと自己評価

1 教育活動への取り組みと自己評価

(1) 学習活動

今年度の取組目標	自己評価
①進学指導重点校として、すべての生徒に大学進学に向けての基礎学力定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・高校入試の分析により、新入生の傾向を各教科で共有した。 ・習熟度別及び少人数授業により、個に応じた指導を展開した。 ・定期的に課題や追試等を課し、教科によっては小テストを頻繁に行うなどして基礎学力の定着及び全体の底上げを図った。長期休業中の補習講座や補習、課題未提出者への追指導を適宜行った。
②生徒の学習意欲を向上させるため、授業内容・方法を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で大学入試について触れたり、入試問題を活用したりして生徒の意識を高めた。 ・各教科で幅広い内容や専門的で高度な事柄を扱い、生徒の知的関心の高まりに繋げた。 ・多くの教科でICTの活用が行われ、定着しつつある。ICT教材の工夫も進みつつある ・新学習指導要領に向けて、探究的な内容を取り入れる工夫を進めている。言語活動の充実については、十分とはいえない面がある。 ・アクティブ・ラーニングの手法がほとんどの教科で導入されている。 ・英語教育推進校としてオンライン英会話の活用が図られている
③生徒の学習時間を確保し、進学実績の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・6月と11月の2回、進路意識調査を行った。 ・隙間時間の活用など、家庭学習時間の確保を継続指導したが、十分に定着したとは言えない。予習・復習に繋がる授業の方法や内容の工夫を各教科で行ったが、さらに徹底していく必要がある。 ・下校時間はおおむね守られているが、完全下校の意識を一層徹底する必要がある。 ・学年集会等を通して、部活動と学習の切り替えの大切さを指導しているが、考査前の活動については、一部にまだ改善の余地がある。 ・自主学習支援事業を活用して自習室の利用延長と休日の開放を行った。
④組織として教員の授業力向上に努め、教科指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で改善は進められているが、改善点の共有など組織的に整理していくことが必要である。学力向上委員会の開催が1回にとどまった。定期開催が必要である。 ・指導計画の周知を行い、計画的に指導を行っている。 ・教科会を定期的に行うなど、教科マネジメントの意識は定着してきている。新教育課程の策定に向け、各教科で議論を深めた。 ・一部教科で定期考査が統一されていない。共通問題の比率をさらに高めるなどの工夫を進めていく ・指導教諭を中心に授業参観の受け入れを行ったが、校外での研修参加はまだまだである。 ・年間2回の授業評価を行い、教科ごとに分析し、授業改善を進めた。

⑤東京都の教育施策を見据えて、新たな教育課題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 英語教育推進校として民間の4技能検査の実施やCAN=DOリストの活用などを通して「使える英語力」向上を図った。海外留学希望者も増加し、組織的に対応した。
⑥学習指導要領の改訂を見据えて、進学指導重点校に相応しい教育課程を編成する。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で新教育課程について協議し、検討を進めた。 定期考査の時期の変更の成果の検証と次年度の年間行事計画の検討を企画調整会議中心に進め、カリキュラムマネジメント委員会・学力向上委員会の議論を通してさらなる改善策の提言に繋げた。 カリキュラムマネジメント委員会を活用し、新教育課程の検討を進め、提案を行った。

(2) 進路指導

今年度の取組目標	自 己 評 価
①1学年より3年間を見通した系統的、組織的な進路指導をきめ細かに行う。	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した進路指導計画に基づいて各学年を対象にキャリアガイダンスを行うなど、組織的な進路指導を行った。 1・2年生では学年ごとの目標に沿って学年別ガイダンスを、3年生では進学希望に応じた大学別ガイダンスを実施した。 大学の内容を理解するために「東大ガイダンス」「医学部ガイダンス」「女子高生のための東大説明会」「東工大模擬授業」「一橋大模擬授業」「東京外大との交流会」を実施した。自己の将来を考えさせるために1、2年生を対象に進路講演会を実施した。大学生の卒業生を招き2年生を対象に「進路懇談会」を実施した。また「東大見学会」「京都大学見学ツアー」を実施し、定員以上の希望者を集め、大学への興味関心を高めた。 個人面談の実施は2～3回実現でき、生徒個々の実態を把握し指導に生かした。クラスによる回数差があることが課題である。三者面談は希望者に対して実施であった。 各学年保護者を対象に「進路講演会」を実施した。 進路ニュース、月1回程度の一・二年の学年通信を発行し、進路に関する情報を生徒に伝えた。 進路相談体制は、低学年では学年担当を中心に構築されている。分掌との一層の連携が必要である。 同窓会、後援会の協力を得て6月に「卒業生を励ます会」を実施した。また進路指導部を中心に既卒生の状況把握に努めた。
②学力向上のため、長期休業日中の講習の参加生徒の増加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 夏季講習は進路指導部中心に計画され、各教科で内容等を検討して学校全体で8期にわたり行われた。講習を受講しやすいよう日程の工夫を行った。生徒の意識の高まりから欠席者がさらに減少した。 夏季講習は多摩地区の進学校間で相互に開放した。周知は十分行ったが、本校からの参加者は少なかった。 部活動や夏季合宿への参加生徒の講習への出席が依然として課題である。部活動等との時間調整をより計画的に行う。 早い時期から講習を計画し生徒に示すことにより講座数、参加数ともに前年度並みを維持できた。秋季・冬季・直前講習を実施した。 日常の補習・個別指導が充実した。数英を中心に成績不振の生徒を対象にした講習を実施し、全体の底上げを図った。センター試験後の個別指導や補習も行われ、多くの生徒が参加している。

<p>③進学指導重点校として培ってきた学習指導・進路指導ノウハウをさらに発展させるとともに、進路データの蓄積を行い、教員の共通理解を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路の手引き」を活用し生徒の進路意識を向上させ、進路実現に向けての動機付けに役立たせることができた。 ・年間の計画に沿って各学年で模擬試験を実施した。模試毎に各学年で分析を行い、結果を集会等で生徒に還元して、進路意識を高めた。 ・各学年3回の模試分析会を実施するとともに、模試データの比較により教科指導の課題把握を行った。 ・年間3回、志望校検討会議・出願指導研究会を実施し、きめ細かい指導を行った。 ・高大接続改革については、進路指導部を中心に情報を収集し、対応について検討を行った。各教科で新テストに対応した内容を定期考査の出題で工夫し、1・2年生で英語4技能検定試験を実施した。
---	--

(3) 生活指導

今年度の取組目標	自己評価
<p>①基本的な生活習慣の確立に向けた指導を重点的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会で基本的な事柄についての指導を行った。地域から下校時のマナーや自転車の利用についての指摘を受け、その都度全校放送等を活用して注意喚起を行った。各学年で集会を行い、公共心や規範意識を育成することを意識した指導を行った。特に生徒主体のHR活動等を実現することで、責任感のあるリーダーの育成にも努めた。 ・下校については、定期的に部長会を設けて学校側からの伝達事項を含め指導を行った。昨年度より改善の見られた部活動がある一方、まだ意識が十分でない生徒や部活動については、様々な機会を活用して指導を行うことでルールを守って活動する意識を行き渡らせた。 ・SNSの利用に関して、適正な利用についての指導を計画的に進めたが、指導を要する状況に発展する場面があった。さらなる指導や継続的な注意喚起が必要である。
<p>②生徒が安心して学校生活に取り組めるよう、質の高い教育環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについては、生徒一人一人に配慮しつつ、絶対に許さないという姿勢で学年・分掌が連携して、全校集会や学年集会などで他人を思いやる態度の涵養など、継続的に指導に取り組んだ。小さなトラブルや、問題となるような認識がない場合でも、大きな問題に発展しかねない状況があり、生徒の見守りや即時の適切な指導を日ごろから心がける必要がある。 ・持ち物の放置など盗難防止への意識が十分でない。また、休日登校についての生徒指導に課題がある。施設面では、老朽化により防犯のための施設・設備の改善にも取り組んでいくことが必要である。
<p>③関係諸機関との連携や交流を通して、生徒の安全を守り、公共心を育てる取組みを実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室（4月）、薬物乱用防止教室（7月）を実施した。教科の授業などにも関連づけ、自他の安全について考えて行動できるようにする。 ・生徒主体で他校との交流を行い、各校の情報交換や意見交換をした。意見箱の集約方法や回答方法を改善させ、全校生徒の声を反映させるための土台作りを生徒会主体で行うようになった。 ・ボランティア募集の情報を適宜伝え、様々な体験活動を実現できた。天候の都合や社会情勢で一部の活動が中止になったが、立川のねぶた祭りに参加するなど地域交流を通して社会貢献の意識を高めた。

(4) 特別活動・部活動

今年度の取組目標	自 己 評 価
<p>①学校行事を通じて、国立高校生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実・発展させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当教員と生徒との情報共有を緊密に行い、行事計画を随時確認しつつ、委員会生徒の主体的な活動により各行事を実施した。担当教員以外の職員への円滑な情報共有が課題である。 ・ホームルーム委員会を組織して、主体的なホームルーム活動を行うなど、生徒の主体性を尊重した行事の企画・運営を行い、質の高い行事となったが、前例踏襲になりがちな点についてはさらに生徒の意識を高める必要がある。 ・第九演奏会では、例年と会場が異なったが、生徒の委員会との連携も緊密に取れ、当日の運営もスムーズで、よい評価を得た。プロの演奏家との共演も生徒の高い満足度に繋がっている。 ・文化祭において外部折衝についての指導をきめ細かく行い、諸権利の重要性や社会的な振る舞いについて考えさせることができた。特に問題やトラブルはなかった。 ・体育祭は天候に恵まれ、大きな事故なく、終了した。 ・生徒自身に安全対策について考えさせる、教員の適宜の指導により、生徒主体で事故無く行事を終えられた。教職員の関与や計画段階での参画については検討をする必要がある。
<p>②部活動を通じて、ルールを遵守する態度を身に付けさせると共に、目標に向かって協力し、努力する態度を育成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期に各部が1年生の各教室回りによる部活動紹介を行い、年度当初の部活動加入率は130%となった。 ・部長会で活動に関する各種届出を徹底させて活動状況を把握している。下校状況は改善の余地がある。 ・年度当初に学校の部活動活動方針を策定し、部活動ごとにそれに基づいて活動計画を作成した。 ・部活動活動方針に基づき、活動計画に休養日の設定がなされている。確実に実施されるよう徹底していく。 ・部活動における体罰等の事案は発生していない。生徒間のトラブルが、大きな問題につながることを意識して、部活動の様子をしっかりと見守っていく必要がある。 ・部活動の状況をPTA・後援会発行の冊子等に掲載し、学校ホームページでも紹介している。

(5) 安心安全と健康づくり

今年度の取組目標	自 己 評 価
<p>①快適な学習環境維持のために、校内美化に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の美化についての意識は取れている。清掃の業務委託により、企画室との連絡を緊密に行うことで校内の美化が保たれている。 ・美化委員会、整美委員会等、生徒組織は熱心に活動した。生徒が主体的に清掃やごみ処理についての注意喚起の放送を行うなど、校内美化について、生徒は良く努力している。 ・通常の清掃、学校行事等の前後の大掃除は確実に行われた。一方ゴミ捨て不可の日の清掃が十分でない部分があった。 ・委員会主導でゴミの分別はしっかり行われている。委員会によるゴミの持ち帰りの徹底で、文化祭時は昨年度比10%の削減を達成した。11月に、部室の一斉清掃を行った。

<p>②生徒の心身の健康に配慮した教育活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に学校保健計画を策定、4・5月に定期健康診断及び諸検査を行い、生徒の健康状況の把握に努めた。緊急時の対応についても特に大きな課題はなかった。 ・保健指導等により、健康・安全についての意識の向上を図った。 ・食育、心身の健康及び安全に関する指導は適切に行われているが、生徒の自己管理能力をさらに高める必要がある。夏季休業前にスポーツトレーナーによる暑熱対策講習会を開催した。 ・4月の宿泊防災訓練、4回の避難訓練に生徒はまじめに取り組んでおり、高い意識をもっている。 ・スクールカウンセラーを活用し、生徒及び保護者との相談の機会を確保するとともに、教員の相談にも対応する体制を維持している。 ・各学年の教員参加による生徒支援委員会の月1回の定期開催により、課題を抱える生徒の状況把握と支援内容の検討等、情報共有を行って生徒の支援を丁寧に行った。 ・全校集会や保健の授業を通して生命尊重について指導を行い、不安な際のサインの出し方についても周知をした。生徒支援委員会に各学年の教員が参加し、課題を抱える生徒について共通認識を図ることはできている。
-------------------------------	--

(6) 募集・広報活動

今年度の取組目標	自己評価
<p>①スクールガイド及び学校紹介ビデオを早期に作成し、広報活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールガイドは、中学生とその保護者によりアピールできるように、文章・写真等を変更して作成した。 ・説明会用のパワーポイント資料は分かりやすく見やすいものとなるよう、その時々に応じて修正を加えた。新たに作成した学校紹介ビデオを活用して、学校の魅力を伝えられるよう、行事以上に学習指導の充実をアピールした。
<p>②学校説明会や授業公開、ホームページを活用し、本校の良さを強くアピールする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを迅速かつ頻繁に更新した。一部活動の紹介で未更新が存在することが課題である。 ・入試問題の説明会の内容・時間を改善し、参加者にとって有用なものとなるよう工夫した。 ・学校説明会2回、夏季休業中の学校見学（小学生対象を含む）12回、授業公開2回を行い、分掌や教科の先生方の協力を得て、中学生や保護者に本校のよさが伝わる内容で行った。見学会の生徒による案内も好評であった。12月に新たに臨時の説明会を開催した。 ・都立合同説明会に参加し、中学校・塾等主催説明会にも33回参加し、学校PRに努めた。
<p>③進学重点校に相応しい入学選抜方法を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校が求める生徒像に沿って、きめ細かな協議を行い、推薦選抜における小論文問題及び集団討論のテーマを決定した。 ・本校の求める生徒に適した資質・能力を想定し、綿密な検討により、学力検査における問題を作成した。次年度以降もさらに検討を進め、平均点の管理等、作問を工夫する。 ・組織的な業務、繰り返しの点検により、ミスのない選抜に努めた。マークシートへの変更に対応し、点検・確認の進め方等、マニュアルを作成するなどして適正に実施できるよう次年度確立させる。

<p>④地域の小・中学校との連携による相互の教育課題の共有と解決、地域住民との交流を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『人間と社会』の体験学習の一環として国立市立中学校3校への学習支援に148人を参加させた。今後も学習支援へ参加する生徒の適正人数を中学校側と打ち合わせ、継続していく。 ・国立市立第三小学校の合同防災訓練に13人の生徒が参加した。 ・公開講座により学校開放を推進した。 ・音楽系部活動の参加による小・中・高合同のニューイヤークンサート等、生徒が地域で輝ける機会を設けた。 ・第九演奏会及び文化祭演劇の発表の場である総合発表会に地域の方を招いて公開した。
---	--

(7) 学校運営・組織体制

今年度の取組目標	自 己 評 価
<p>①校内組織を活性化し、より良い学校づくりを目指した取組を行うための協働体制を確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者・地域の評価アンケートをもとに、学校運営連絡協議会の評価委員会で分析、提言を受けて全体で共有した。特に自由記述の内容を企画調整会議で共有することで学校の課題を確認した。 ・企画調整会議を核とする学校運営は定着している。学校改革への取組も企画調整会議を中心に議論がなされている。分掌部会・学年会の時間が十分とは言えないため、拡大分掌部会・学年会の検討など、今後の改善が必要である。 ・主幹教諭・指導教諭を中心に職層に応じた役割は明確になっている。 ・文書起案は徹底されており、文書の回付により組織だった校務運営が進められている。
<p>②ICTの活用や会議の効率的運用等により校務を効率よく遂行することで、教職員のライフ・ワーク・バランスの推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校閉庁日はおおむね有効に活用されている。 ・校務サーバは有効活用され、円滑な業務遂行に役立っている。 ・簡単な、あるいは緊急の連絡はTAIMSメールを活用して周知されている。 ・職員会議等はおおむね勤務時間内に終了している。資料の電子化等が次の課題である。
<p>③教職員の資質・能力を向上させ、進学指導重点校としての教育活動の在り方を推し進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若手教員へのOJTは担当者を明確にし、副校長が進行管理を行うことで組織的に実施できた。 ・指導教諭会を定期的には開催できず、研修が実施できなかった。指導教諭中心に授業参観の呼びかけを行ったが、参観者は少なかった。 ・初任者及び進学指導研究生の研究授業の際は、多くの参観があった。また、研究授業後の協議もそれぞれの教科で実施された。 ・指導教諭の模範授業や公開授業、研修を実施することで多くの学校外からの多くの参観者を得た。 ・「主体的・対話的で深い学び」をテーマとする研修は実施できなかった。 ・「体罰根絶」に向けて、事故例の周知及び職員会議での繰り返しの注意喚起を行った。 ・学期はじめや終わりに、服務事故防止研修を行った。情報セキュリティについても繰り返し注意喚起を行っている。
<p>④経営企画室の経営参画を推進し、業務を円滑に遂行する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経営企画室長を中心に、経営参画ガイドラインを意識した企画室運営が行われている。 ・予算編成指針に基づき、予算編成を行い、四半期別執行計画に基づき計画的に執行した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・授業料及び就学支援金に関する事務は迅速に行われ、未納生徒への通知はその都度行い、学年にも周知し、情報共有した。修学支援金の取り扱いについては、特定個人情報の管理に留意して適正に行った。 ・企画室と教育職員の連携は、双方向的な情報発信、担当者間の緊密な連絡調整により確実に業務遂行がなされるように努めた。 ・施設・設備の不具合は速やかに連絡し、迅速に対応してもらえるように調整した。設備の中長期的な更新計画の立案は十分な見通しをもって立案することができなかった。
--	---

(8) 国際理解教育

今年度の取組目標	自己評価
① オリンピック・パラリンピック教育を進めることで、多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間の育成を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の指導計画を立案し、計画に沿って講演会等の事業を行うとともに様々な場面を通して指導を行った。オリンピック・パラリンピックへの意識や国際理解を深めた。 ・ともだちプロジェクトの対象に限定せず、地歴・公民の授業を中心に幅広く国際社会についての学習を推進した。
② グローバルリーダーを育成する取組を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代リーダー育成道場について周知し、複数の希望者への指導を行った。また、民間の支援による留学の希望者への指導を行った。 ・進路講演会を通して、共生社会の視点などを培った。
③ 日本人としてのアイデンティティを備えた国際社会に生きる日本人を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎教室（7月）及び狂言教室（4月）により、伝統芸能に触れ、理解する機会をもった。 ・11月に実施した東京外国語大学の留学生との交流により異文化理解を深めた。 ・ランチミーティングなどJET青年との交流活動を行った。

2 重点目標への取り組みと自己評価

重点目標	具体的な数値目標と結果	評価
1 広報活動を充実させ、募集対策に努める。	① 夏季見学会来場者数 3069名 (昨年 2722名)	◎
	② 学校説明会来場者数 1204名 (昨年 1312名)	◎
	③ 入試説明会来場者数 616名 (昨年 746名)	◎
	④ 推薦に基づく入学者選抜の応募倍率 3.79倍 (昨年3.37倍)	○
	⑤ 学力に基づく入学者選抜の応募倍率 1.66倍 (昨年1.66倍)	△
2 進学重点校としての進学実績を向上させる。	① 東京大学現役合格者数 8名 (昨年 9名)	△
	② 難関国公立大学現役合格者数 (東京・東京工業・一橋・京都・国公立医学部医学科) 56名 (昨年 38名)	◎
	③ 東京・京都以外の旧帝大現役合格者数 (北海道・東北・名古屋・大阪・九州) 20名 (昨年 11名)	◎
	④ 国公立大学(四年制)現役合格者数 141名 (昨年 117名)	◎
	⑤ 難関私立大学現役合格者数 (早稲田・慶應・上智・東京理科) 178名 (昨年 90名)	◎
	⑥ センター試験文系6教科7科目・理系5教科7科目受験者 247名 (昨年 254名)	○

	⑦センター試験文系6教科7科目得点上回り指数 1.30 (昨年 1.29)	◎
	⑧センター試験理系5教科7科目得点上回り指数 1.22 (昨年 1.23)	○
3 学力向上のため、長期休業日中の講習を充実させる。	② 長期休業中の講習講座数 165講座 (昨年177講座) ① 長期休業日の講習受講者数 (延べ) 10155人 (昨年 11704人)	○ ◎
4 学力向上のため、家庭学習時間を増加させる。	①家庭学習時間 1年(春季) 1.44時間 (昨年1.45時間) 2年(春季) 1.06時間 (昨年1.22時間) 3年(春季) 2.48時間 (昨年1.89時間)	△ △ △
5 授業改善に努め、生徒の授業満足度を向上させる。	①学校評価項目「授業その他、本校の学習や教育のあり方全般に満足しています。」の「A:そう思う」、「B:ややそう思う」の合計ポイント 81.2% (昨年 64.9%)	△
6 肌理の細かな進路指導を実施し、進路指導満足度を向上させる。	①学校評価項目「本校の進路指導は、進路実現の参考になり役立っていると思いますか。」の「A:そう思う」、「B:ややそう思う」の合計ポイント 85.0% (昨年 80.8%)	△
7 特別活動・部活動を充実させ、生徒の学校満足度を向上させる。	①学校評価項目「学校生活に充実感を感じていますか。」の「A:そう思う」、「B:ややそう思う」の合計ポイント 95.3% (昨年 84.2%)	◎

◎ 達成 ○ ほぼ達成 △ 未達成

II 次年度以降の課題と対応策

(1) 教育活動の質を向上させる

生徒の授業満足度の数値は昨年度から一転して向上している。数値に甘えることなく、学習習慣の定着と学力向上に向け、授業改善に努めていく。

授業以外の学習時間は依然として目標である(学年+1)時間に到達していない。次年度も引き続き学習習慣を確実に身に付けさせる工夫を進める。これまで宿題・課題を課す等を教科により行っているが、時に過多になることもあり、そのために学習を諦めてしまうことに繋がりがかねない。学年会等を通じ、教科間の連絡を密にすることで、課す課題の量や時期の調整等、効果的な方法について検討を行う。また、指導教諭会を活用して授業改善についての研修を行うなど、予習・復習に繋がる授業の方法や内容の工夫について、各教科でさらに検討していく。クラス・学年全体で学習への雰囲気作りや集会・HR・面談等を通じた指導、学習時間の確保を含めた時間管理意識についての指導も行っていく。

学習習慣の確立と合わせ、基礎学力の確実な定着が現役での進路実現に繋がる。教科ごとに明確な目標を設定するとともに、基礎力の定着を図ることのできる試験の在り方を検討し、ICTについても、さらにより多くの授業で活用する工夫が必要である。また、定期考査の時期を変更したことの検証をさらに進め、さらなる改善に向けて検討を行い、新学習指導要領に向けて、一層探究的な内容を取り入れるなどの工夫や、新テスト導入を見据えた定期考査問題の工夫等により記述力の向上についても進めていく。今年度引き続き、カリキュラムマネジメント委員会を中心に新教育課程を確定させ、新学習指導要領のもとの進学指導重点校としての教育課程をまとめる。

(2) 生徒の高い進路希望を実現する

長期休業中や放課後、大学入試センター試験後の時期等、講習や添削指導などのきめ細かい指導により、難関国立大学進学実績の向上に繋がった。国公立大学・難関私立大学の現役合格者数も増加した。課題は難関

国公立大学への現役での進路実現である。現在の現役・既卒者合わせた合格者の数字を維持しつつ、その現役比率を向上させることが必要である。そのためには、生徒の高い志を最後まで維持させること、途中で諦めさせないことが重要である。次年度から学年進行で模擬試験の在り方について検討し、これまでと変更することとした。それにより、過年度比較や他校比較等のデータ分析を活用し生徒の学力を正確に把握し、引き続きデータ分析を通して教科指導の改善に反映する。長期休業中の講習についても、部活動等との時間調整をより計画的に行うとともに、特に1・2年生向け講座の内容や夏季休業中の生徒の活動等、適切な講座設定の検討が必要である。また、高大接続改革への対応については、引き続き情報収集に努め、新テストへの対応、特に読解力及び記述力の向上への工夫についての検討等を進める。

進路指導について、生徒の満足度がやや向上した。このことについても現状に満足することなく、生徒に高い志を持たせ、かつ維持することができるよう、きめ細かい指導を行うための個人面談についても計画的に実施する。進路指導や進路相談のノウハウを共有し、面談の回数、時期について必要最小限を学年会で確認するなど、学年内で差が出ないようにし、生徒のニーズに応じた進路指導を実現する。

(3) 学校生活を充実させ、安心して学校生活を送らせる

SNSの利用に関して、全校集会、HRを柱に基本的指導事項を徹底していく。下校時間の順守についても、部長会等を通じ指導を行う。休日登校については、休日で自習室開放日でない日を明確に生徒に示すことで校舎の管理を含め、指導を徹底する。

生徒の学校生活への満足度は向上したが、学校行事や部活動への参加、取り組みの意識に変容が見られる。生徒の意識の変化にも留意しつつ、生徒が人や何かの役に立っていると感じられるような主体的活動をさせることや周りがそれを認めていく雰囲気づくりを通して、自立的活動を充実させていく。学校行事の意味について生徒に考えさせること等も通して、生徒の学校生活が充実したものとなるようにする。行事については、生徒の自主性を重視しながら指導を行ってきたが、さらに一層、教職員同士や生徒間及び教職員と生徒との連絡・連携を密にしていく。

部活動活動方針を策定し、活動方針に基づいて適切に休養日等を設けることとなっている。家庭学習時間の増加やメリハリのある高校生活を送らせるうえでも、きわめて重要である。

心身の健康について生徒自身の自己管理能力をさらに高める必要がある。また、日々の多忙さから、学校生活に十分適応できずに体調を崩すことも見られた。これまでも注意深く見守ってきたところではあるが、引き続き十分に留意していく。生徒支援委員会を通して情報共有を徹底するとともに、スクールカウンセラーを活用した教員の研修を通して教員の感覚を研ぎ澄まし、問題防止、早期発見、迅速な解決に向けた相談体制の確立をさらに進めていく。

本校は、進学指導重点校として、生徒の高い進路希望を実現させるべく、質の高い教育活動を行ってきた。今後も更なる高みを目指し、全教職員一丸となって学校改革を進め、生徒の進路希望実現と、生徒・保護者・地域の期待に応えられる学校づくりを更に推進する。